主　論　文　要　旨

No.1

報告番号	甲　乙　第　　号	氏　名	冨田　勝

主 論 文 題 目 ：

鶴岡サイエンスパークの創造と地方創生

（内容の要旨）

山形県鶴岡市は人口約 13 万人の典型的な地方都市であるが、その地域振興を目的に、市と県および慶應義塾は三者協定を結び、2001 年 4 月に慶應義塾大学先端生命科学研究所（以下、先端研）を開設した。筆者は、先端研の立ち上げから今日まで 18 年間所長として運営の中心的役割を担ってきた。本論文では、大学研究所である慶應先端研がどのように地域振興に貢献しているかを　①研究成果による地域の学術文化価値の向上　②学会など各種イベント開催による交流人口の拡大　③創業したベンチャー企業による新産業の創出　④地元企業、地元自治体との連携　⑤雇用と経済効果　の 5 つの観点から詳細にまとめた。

先端研の研究成果によって、2003 年にはヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株式会社（血液検査でうつ病診断）、2007 年には Spiber 株式会社（人工クモ糸の量産）、2013 年には株式会社サリバテック（唾液検査でがん診断）、2015 年に株式会社メタジェン（便検査で腸内健康）、2016 年に株式会社メトセラ（心筋の再生医療）、2017 年に株式会社 MOLCURE（AI で抗体医薬探索）の 6 社のバイオベンチャー企業が創業された。このうちヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ社は、2013 年に東証マザーズに株式上場し、鶴岡市で唯一の上場企業となった。

先端研が研究費として獲得した外部資金は 2014 年～2018 年の 5 年間で約 59 億 4 千万円で、先端研関連企業が獲得した資本金等は合計約 265 億円である。そして慶應先端研の設立によって生み出したと考えられる雇用は約 500 人であり、これは鶴岡市の労働人口の約 0.7%にあたる。そして先端研による地域の経済波及効果は年間約 33 億円と推定されている。

全国の他地域と比較して、鶴岡は　①ゼロからのスタートであったこと　②国の「地域イノベーション戦略支援プログラム」（全国 30 拠点）の支援対象外であったこと　③ベンチャー起業を支援するサービスはなかったこと、という点で厳しい状況にあると思われた。にもかかわらず発展してきたのは　①自治体による一貫した財政支援　②「脱優等生」という理念　③豊かな自然と食文化　などによるものであると考察し、大学研究所を核にした地域振興を成功させるために必要な鍵を提言する。

キーワード：　地方振興、バイオベンチャー、地域イノベーション、鶴岡サイエンスパーク